

視 察 調 査 報 告 書

委 員 会 名	総務企画常任委員会
参 加 者	委 員 長 内 田 実 副委員長 加 藤 学 委 員 三 浦 康 宏 磯 部 亮 次 畑 尻 宣 長 三 宅 健 司 山 崎 泰 信 山 崎 憲 伸
視 察 日 時	平成29年 1 月18日（水）13：30～15：30
視察先・概要	埼玉県春日部市 人口：232,372人 世帯数：100,402世帯 面積：66.00 k m ² 特記事項：住みよさランキング2016（東洋経済）総合549位 （安心789位、利便155位、快適388位、富裕354位、住居574位）
視 察 項 目	「かすかべ未来研究所」について
視 察 概 要	1 設置の背景 ・ 地方分権の影響 ・ 議員からの一般質問 ・ 市長のマニフェスト 2 機能 (1) 調査研究機能 さまざまな行政課題を解決するために、各種データ等の収集や分析、行政課題の解決に向けた調査研究を行う。 (2) 支援機能 各担当部署が行う計画策定や政策立案に対する助言・相談、研究成果の情報発信等を行う。 (3) 人材開発機能 職員の政策形成能力を高めるための人材育成を行う。 3 研究所の人員体制・予算 (1) 人員体制 所長を総合政策部長、副所長を政策課長が兼ね、その他研究員として政策課政策推進担当 5 名で組織されている。 (2) 予算 28年度は未来研究所モニター・講師への謝礼や i - JAMP の情報使用料としての通信運搬費、政策形成アドバイザー事務の委託料など 168万8,000円を予算計上。 4 主な成果 ・ 平成23年度事業 「大災害が発生した場合の職員の対応に関する研究」 職員参集メールシステムの構築に結びつく。また、日本都市センター機関誌「都

	市とガバナンス」第19号に掲載された。 ・平成24年度事業 「経営の柱である行政評価制度の検証と行政の最適化に関する研究」 行政評価シートを全面的に見直し、研究成果を最大限活用したシートへの移行を実施した。 「自治体の広報戦略についての調査研究」 平成25年度の機構改革に伴い、総合政策部内にシティセールス広報課が設置された。さらに調査研究を担当した研究員が調査研究の成果を持って異動し、同課の課長に任命 ・平成25年度事業 「公共施設の適正配置についての調査研究」 平成26年度策定の公共施設白書の基礎資料として利用 ・平成27年度事業 「地方版総合戦略策定に伴う具体的な事業提案と効果測定の研究」 平成27年度に策定された「春日部市まち・ひと・しごと創生総合戦略に個別事業として反映 5 今後の課題 (1) 関係課研究員・公募研究員 研究テーマによっては公募研究員がなかなか集まらない。各部署とも少ない人数で業務を行っており通常業務＋研究となると厳しい。 (2) 研究テーマの設定方法 テーマは研究所内で考えているが、公募する必要性の検討 (3) 事業の強化 情報管理事業、政策開発相談の2つは庁内で利活用してもらう事業であるが、まだ活用が少ない。
所 感 視察しての感想 や岡崎市への提 言など	・市民満足度の向上、職員の政策形成能力の向上のためのシンクタンクの設置は重要であるし、必要なことである。春日部市の取り組みは素晴らしいものである。ただ、庁内の総合政策部内に設置する必要性、通常の部内の業務との関係に少し疑問もある。本市においても過去にシンクタンクの取り組みがされたと記憶するが、当時の経緯についても検証する必要があると考える。 ・実際にH23年度より施策等への反映が図られており、テーマに合わせ課を越えた横の連携が構築され、職員の意識・意欲の向上にもつながっているところに感銘を覚えた。やはり課・部署の横の連携や職員のやる気といったものがどんな事業・施策にも鍵となるので、本市にも取り入れたいヒントや要素が多分にあった。 ・庁内シンクタンクのかすかべ未来研究所は、市の抱えている課題からテーマを導き出し、課を越えて組織を横系で結び、調査研究並びに答えを出していくということで、市としての情報の蓄積やノウハウの共有化、外注費の軽減に効果を発揮しているということで、本市でも真似て

	みても良いと思われる。何よりも人材育成・職員のモラル向上と将来の幹部候補の育成に効果が期待できると感じた。 ・シンクタンクを庁内に設ける、みずからの考えで気づき、改善していくとの力強さを感じた。特に課長のリーダーシップがあって良い方向に向けられているし、実効性を持っていると感じた。本市も4月から新しい組織体制になるが、中核となるリーダーの発掘が要である。そのリーダー次第で本市も可能だと思った。 ・市の総合計画、外部研修、講演会などから得た情報をもとに研究テーマを選定していること、また専門のアドバイザーによる助言も得ていること、これらにより研究テーマに深みが出て専門的に取り組むことができると感じた。複数年にわたり研究していくテーマもあり、柔軟性も備えている。専門的に研究していく組織を本市にも取り入れていけば、より市民サービスの向上につながると考える。 ・市役所内部にシンクタンクを置くことは、内部の事情をしっかりと理解した研究が可能で実効性の高いものができる。ただ反面、これまでの施策を大きく変えることができる発想の転換は、庁外に設置した方が良いと思う。本市で設置を考える場合は、メリット・デメリットをよく精査して検討する必要がある。 ・シンクタンクを外部ではなく、あえて総合政策部長を所長としてかすかべ未来研究所として総合政策部の内部に組織することにより、さまざまな行政課題の解決のための調査研究が活発に行われ、各担当部署が行う政策立案などに実行可能な助言をすることができ、職員の政策形成能力の向上にも貢献していると感じた。
委員長の総括	新しい時代に対応した政策提案を行う機関として設置されたかすかべ未来研究所は未来を創造するための政策を創出し、年度ごとの市の課題をまとめ、企画・立案し、市長、副市長初め関係部長の出席の下で合議され、総合政策部がリーダーシップを発揮し、着実に実行され成果を得ている。本市も平成29年度から組織改正により総合政策部が設置されるが、市民目線に立って実効性を前提としてシティプロモーションを初め部を横断する市の課題について市民ニーズを適切に把握し、主体的かつ効率的に取り組み、成果を得ることのできる組織としていくことが大切である。